

第12回多摩市自治推進委員会 要点記録

平成26年9月12日（金）18:30～20:30

多摩市役所3階 特別会議室

出席者：安藤委員長、松本副委員長、川添委員、小嶋委員、田中委員、横山委員

事務局：企画政策部長、企画課長、企画課主査、企画課主事

審議：報告書に関する検討について

□開会

委員長 前は、これまでの委員会で出てきた自治推進に関するキーワードについて議論した。今後、報告書の作成に向けて、キーワード等を更に整理していきたい。また、事例検討しながら、新たな視点を追加していきたい。更に、報告書を、実際に市民の方に手に取っていただき、理解していただけるような形にしていきたい。まずは、前回の議論を受けて、事務局が報告書の構成（案）、イメージ（案）を作成している。事務局から説明をお願いしたい。

事務局 資料1-1、1-2に基づき、事務局から説明を行った。

委員長 この委員会の特色は、「自治」という概念を広く捉えていることである。つまり、「自治」を行政の活動だけではなく、市民の方に動いていただく、または市民の方が動きやすくなるにはどうすれば良いかという視点で捉えている。そうした観点から、今回事務局に報告書の構成（案）等を作成いただいた。事務局案についてご質問等はあるか。

委員 報告書の構成（案）、作成イメージ（案）について、図や絵を使うのはわかりやすいと思う。

委員 私も、絵柄が多く読みやすいと思う。

副委員長 資料を読んだ印象として、やわらかく、親しみやすくなっていると感じた。大まかな構成も良いと思う。

ただし、「2 わたしの“じちまっぷ”」について、「まっぷ（地図）」という単語では、空間的な広がりを連想してしまう。自治とは、プロセスやストーリーを表すものなので、「じちの“ステップ”」などと表現を変えた方が良いのではないか。

また、「3 まちのものがたり」について、3つの事例であれば、市外から集めるのではなく、市内の事例を中心に上げてはどうか。市外の事例は、関連事例として、コラム的に上げてはどうか。

委員長 この報告書は市民の方に活用されなくてはならないと考えるが、例えば、報告書とは別に付録としてパワーポイント版を作成して、行政が自治会に働きかける場合に使用することは可能か。

事務局 可能である。より市民の方に手に取っていただける形で配付できれば良い。

委員 確かに、この報告書を自治会に配布すると良いかもしれない。また、参考事例として立川市の大山自治会の取り組みなどが載っていると、役立つと思う。

副委員長 また、自治会などの組織に加入していない方々に、どうしたら届けられるかも考える必要がある。例えば、銀行や飲食店に報告書を置くなど、置き場所を工夫することによってPRすることができるかと思う。また、実際に手にとってもらえるように、表紙をキャッチーにする必要がある。

委員長 病院の待合室に置いたり、ケーブルテレビで流すなどの方法も考えられる。

委員 市外から引っ越してきた人や、地域との交流がなかなか見出せない人に見てもらえると、活動が広がる可能性がある。

また、「4 おとくな情報」では、多摩市内の年間のお祭りなども載っていると役立つと思う。

委員長 「4 おとくな情報」で、地域での子ども達の集まりや、行政が関わらない民間レベルでのサロンの活動も掲載できると良い。そうした民間の情報（時間、内容など）を、市の公式ホームページに掲載することはできるか。市外から引っ越してきた人などのためにも、ホームページで見られると良い。

事務局 予算上の都合がつけば、ホームページに掲載することは可能である。また、今後、オープンデータの活用などができると、市民との情報共有が進む可能性がある。いずれにしても、報告書を出すだけにとどまらない取り組みが必要である。

委員 その際に、これまで活動してこなかった人達や情報に触れるチャンスがなかった人達に対して、「あなたの力を貸して欲しい。」といったメッセージを伝えられると良い。そのために、「2 わたしの“じち”まっぷ」で、よくある質問的なものを載せると良いのではないか。

また、報告書の置き場所については、市民団体の出入りが多い永山公民館のサークル活動室も、PR効果が高いと思う。

更に、報告書の概要版などを作ると、より手に取ってもらいやすいかもしれない。

副委員長 「1 はじめに」の自治に関する説明と、「2 わたしの“じち”まっぷ」以降との繋がりがわかりにくい。自治に関する説明は、最後の方に掲載した方が良いのではないか。

「1 はじめに」では、誰もが感じる疑問（ごみが多い、子どもが心配、緑が多くて暗いなど）に対して、実際に地域の課題解決のために活動をしている人がいるといった記載から、問題意識が持てるような形でスタートできると良い。

委員長 誰が読むのかを意識し、読みやすい形で作れると良い。場合によっては、概要版などをブックレット的に作るのも良いかもしれない。

事務局 また、「自治」という単語を使わないで報告書を作成することも考えられる。

委員長 次に、事務局から資料2についての説明をお願いしたい。

事務局 資料2に基づき、事務局から説明を行った。

委員 「2 わたしの“じち”まっぷ」のステップ1について、これらのキーワードに当ては

まる人は、かなり意識が高い人のように思える。ステップ1の前の段階で、意識のなかった人に参加していただく段階があるのではないか。

委員 また、社会との繋がりが少ない人にとっては、「情報」が伝わることも重要だと思う。

委員長 ステップ1の前に新たにカテゴリーを作り、様々な事例を載せられると良い。

副委員長 資料2で出てきているキーワードは、「人」よりも「活動」という視点から作られていると思う。今後、事例検討などをしていく中で、最終的にまとめていければ良い。

委員長 次に、事務局から現在改定を進めている総合計画第2期基本計画の進捗状況について、報告がある。事務局から説明をお願いしたい。

事務局 「参考資料 第五次多摩市総合計画・第2期基本計画素案」に基づき、事務局から説明を行った。

委員長 副委員長は、多摩市総合計画審議会の委員として参加している。総合計画審議会と自治推進委員会は別の視点から議論するが、参加しての感想はあるか。

副委員長 総合計画の「2 市民がデザインするまち」では、参画・協働をキーワードとしている。その部分で自治推進委員会での意見を活かしていくことができるのではと感じている。

事務局 また、自治推進委員会での報告書について、総合計画の「主な施策の方向性」の部分で提案いただければ、市の施策へ反映していくことができる。

副委員長 総合計画の分野別計画には、「施策の実現に向けて市民は…」という欄がある。この欄では、実際に市民参画の場（市民アンケート、市民ワークショップ）で出た意見を基にして作っている。この部分を、自治推進委員会の報告書へ反映していくこともできると思う。

委員長 次に、委員から、雪かきボランティアに関する事例紹介がある。委員、説明をお願いしたい。

委員 「参考資料 （聖ヶ丘2丁目）雪かきボランティア経過記録」に基づき、説明を行った。

委員 この事例は、ステップ1の前の段階だと思う。

副委員長 この事例は、ボランティア組織を立ち上げた所が上手いと思う。雪かきを自治会の仕事とすると、失敗に終わる可能性が高い。自治会からは予算を出していただくなど、予算と組織の使い方が上手い。まさに自治の事例だと思う。

委員長 この事例では、自治会が中間支援組織的な役割を果たしている。また、この仕組みを作ったコーディネーター役、キーパーソンの存在が大きい。雪かきはこういった場所で行っているのか。

委員 家の前ではなく、主に人通りの多い道路を雪かきする。また、1時間以内で終わらせることを目標としている。

委員長 今後、他の事例も含めて、より深く事例検討していくかを決定したい。

次に、前回議論となった武蔵野市の2つの事例について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

テンミリオンハウス（武蔵野市）、武蔵野プレイス（武蔵野市）について、事務局から説明を行った。

委員長

テンミリオンハウスでは、様々なイベントを行っている。市が年間 1000 万円を上限とする補助を行っているが、お金のことを別にすると、地域の拠点を行政が作っている事例として、参考になるのではないか。

また、武蔵野プレイスでは、場の作り方を工夫することにより、様々な活動が生まれている。こうした事例の発想的な部分は取り入れられると良い。

それでは、本日の議論についてはここまでとしたい。

本日の議論で、報告書のまとめに向けたイメージが具体化されてきた。本日の議論を踏まえて、事務局に報告書（案）を修正していただきたい。また、今後、報告書の内容を踏まえて、事例検討を行えば良い。次回の開催日は、10月27日とする。これで第12回委員会を閉会する。

□閉会